

鳴門市における獅子舞傳承の現状と課題

— 傳承者を対象としたアンケート調査より —

民俗班 (徳島民俗学会)

高橋 晋一*, 天羽 祥仁, 磯本 宏紀, 棧敷真由美, 関 眞由子

要旨: 民俗班では平成 28 年度, 現在鳴門市内で活動している 12 の獅子舞傳承団体のメンバーに対して, メンバーの属性, 活動への参加状況, 傳承に関する意識等を明らかにするためのアンケート (調査票) 調査を実施した。本論文は, 平成 28 年度に行ったアンケート調査の結果を概括的に提示し, 分析を行うものである。

キーワード: 鳴門市, 獅子舞, 民俗芸能, 傳承, 地域社会

1. はじめに

近年, 過疎・高齢化, 少子化, 価値観の多様化, 生活様式の変化など, さまざまな社会変化にともない, 地域における民俗芸能の継承が困難な状況を生じている¹⁾。こうした状況の中, 地域社会における民俗芸能の傳承組織 (傳承を支えるシステム) の現状と課題を把握するとともに, 民俗芸能に関わる人々の傳承に対する意識を明らかにすることは, 今後の傳承に向けての有効な方策を考える上で, 大いに意味のある作業であると思われる。

民俗班では, 平成 27・28 年度の 2 年をかけて, 鳴門市の獅子舞の民俗学的調査を実施した。今回の調査により, 現在休止中のものを含め鳴門市内に 22 の獅子舞が存在することが確認された (表 1)。従来, 鳴門市の獅子舞については 14 ヶ所しか報告されていなかったが²⁾, 今回の調査で新たに 8 つの獅子舞を追加確認できたことになる。

平成 27 年度にはこれら 22 ヶ所の獅子舞について関係者への聞き取り調査, および現行の 12 ヶ所については秋祭りにおける獅子舞の観察調査を実施, 詳細な調査報告書を刊行した³⁾。鳴門市の獅子舞の

全体像に関する調査報告はこれまで見られず, その基礎データを提示できたことの意味は大きい。

平成 28 年度は, 現在活動している 12 の獅子舞傳承団体のメンバーに対して, メンバーの属性, 活動への参加状況, 傳承に関する意識等を明らかにするためのアンケート (調査票) 調査を実施した。本論文は, 平成 28 年度に行ったアンケート調査の結果を概括的に提示し, 分析を行うものである。

2. 調査の概要

平成 28 年 5 月に, 現在活動している鳴門市内の 12 の獅子舞傳承団体の代表に共通様式の調査票をお渡しし, 関係者への配布・回収を依頼した。7 月末までに記入済みの調査票一式を各団体の代表から受け取り, データを集計・整理の上, 分析を行った。

調査対象は現在各地域で獅子舞の傳承に直接関わっている人々 (保存会等傳承団体のメンバー) を中心として, 補助的な関わりを持つ OB など含まれる。回答数は 269 (有効回答数 269)。地域別の回答数の内訳は, 桧 31, 萩原 12, 池谷 28, 大谷 20, 姫田 15, 牛屋島 32, 市場 25, 大幸 14, 北泊 12, 櫛木 35, 宿毛谷 26, 折野 19 となっている。

* 〒770-8502 徳島市南常三島町 1-1 徳島大学大学院総合科学研究部 takahashi.shinichi@tokushima-u.ac.jp 088-656-7126

表 1 鳴門市の獅子舞一覧

No	名称	伝承地	上演の機会	上演期日(2015年現在の祭礼日)	備考
1	桧の獅子舞	鳴門市大麻町桧	桧地区の3神社(熊野神社・愛宕神社・山神社)例祭, 大麻比古神社例祭	10月第1日曜(桧地区の3神社), 宵祭(大麻比古神社祭礼前の日曜), 11月1日(大麻比古神社)	
2	萩原の獅子舞	鳴門市大麻町萩原	春日神社例祭	11月3日	
3	川崎の獅子舞	鳴門市大麻町川崎	八坂神社例祭	11月1日	休止
4	池谷の獅子舞	鳴門市大麻町池谷	天河別神社例祭, 阿波神社例祭	10月第2土日曜	
5	大谷の獅子舞	鳴門市大麻町大谷	宇志比古神社例祭, 山神社例祭	10月体育の日の前の金土日曜	
6	姫田の獅子舞	鳴門市大麻町姫田	葛城神社例祭, 宮尾神社例祭	10月体育の日の前の金土日曜	
7	牛屋島の獅子舞	鳴門市大麻町牛屋島	事代主神社例祭	11月3日	
8	東馬詰の獅子舞	鳴門市大麻町東馬詰	諏訪神社例祭	11月2・3日	休止
9	市場の獅子舞	鳴門市大麻町市場	八坂神社例祭	10月体育の日の前の日曜	
10	大幸の獅子舞	鳴門市大津町大幸	若宮神社例祭	10月第3日曜	
11	大代の獅子舞	鳴門市大津町大代	諏訪神社例祭, 恵美須神社例祭	10月14日	休止
12	徳長の獅子舞	鳴門市大津町徳長	八坂神社例祭	10月12日	休止
13	中江の獅子舞	鳴門市大津町徳長(中江)	稲荷神社例祭	10月13日	休止
14	大島田の獅子舞	鳴門市瀬戸町大島田	島土神社例祭	10月体育の日の前の日曜	休止
15	北泊の獅子舞	鳴門市瀬戸町北泊	天満神社例祭, 権現神社例祭	10月24・25日	
16	櫛木の獅子舞	鳴門市北灘町櫛木	八幡神社例祭, 妙見神社例祭	11月3日	
17	宿毛谷の獅子舞	鳴門市北灘町宿毛谷	葛城神社例祭	11月4日(宿毛谷, 大浦), 11月5日(栗田, 葛城神社)	
18	鳥ヶ丸の獅子舞	鳴門市北灘町鳥ヶ丸	山神社例祭, 葛城神社例祭	11月4日(大浦), 11月5日(栗田, 葛城神社), 11月6日(鳥ヶ丸)	休止
19	折野の獅子舞	鳴門市北灘町折野	三津神社例祭, 八幡神社例祭	10月体育の日の前の土日曜	20・21・22合同で復活
20	東地の獅子舞	鳴門市北灘町折野(東地)	三津神社例祭, 八幡神社例祭	10月体育の日の前の土日曜	19として復活
21	川筋の獅子舞	鳴門市北灘町折野(川筋)	三津神社例祭, 八幡神社例祭	10月体育の日の前の土日曜	19として復活
22	三津の獅子舞	鳴門市北灘町折野(三津)	三津神社例祭, 八幡神社例祭	10月体育の日の前の土日曜	19として復活

各地域の獅子舞伝承団体については母集団の輪郭が曖昧な部分があり、調査票の正確な回収率を算出することは困難であるが、聞き取り調査で確認した各伝承団体メンバーの人数(概数)をふまえると、現行メンバーを中心に7、8割程度の構成員から回答を得られたと考えている。なお紙幅の関係で、本稿では12の地域の回答を合わせた全体データを分析の対象とし、地域ごとのデータをふまえた詳細な分析については、平成28年度末に鳴門市教育委員会から別途刊行を予定している調査報告書の中で行う予定である。

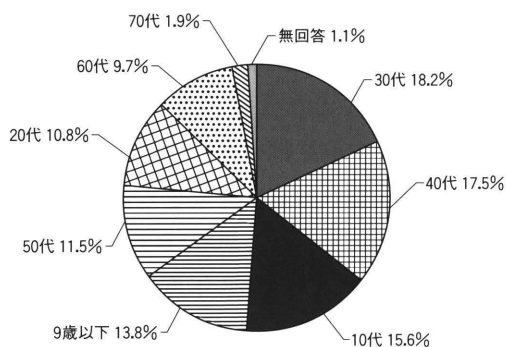
3. 分析結果

以下、調査票の問いごとに集計結果を示すとともに、分析を加えていくことにする。回答者数は、問19・問22・問24を除きすべて269人である。

(1)年齢

回答者の年齢(世代)(問1)は、多い順に「30代」18.2%、「40代」17.5%、「10代」15.6%、「9歳以下」

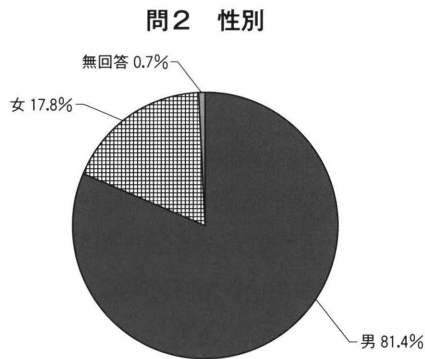
問1 年齢



13.8%、「50代」11.5%、「20代」10.8%、「60代」9.7%、「70代」1.9%、無回答1.1%となっている。10代以下の若年層が29.4%と全体の3分の1近くを占めているが、これは大太鼓・小太鼓・チョウコ・手拍子などを担当する子ども(小学生が中心)がメンバーに含まれているためである。20代以上の大人は基本的に獅子の舞い手を務めるが、北泊、大幸では現在は大人だけで獅子舞を伝承しており、太鼓も大人が担当している(以前は子どもがたたいてい

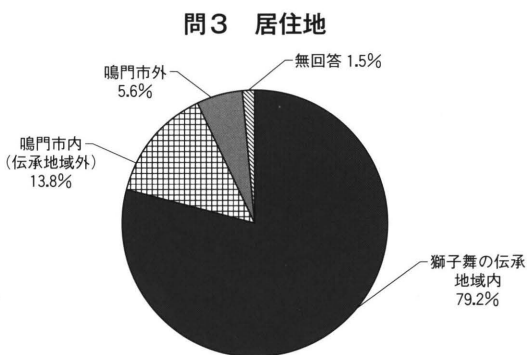
た)。大人は30代・40代が中心で、20代、50代以上の人数はやや少なくなっている。獅子を舞うにはかなりの体力が必要で、一定年齢を過ぎると舞い手を引退していく。かつての舞い手はワカイシ(青年)が中心であったが、メンバーの減少もあり、近年は多くの地域で年齢が上がっても舞い手を続けている状況がある(聞き取り調査による)。

(2)性別



回答者の性別(問2)は、男性81.4%、女性17.8%、無回答0.7%となっている。そもそも神前に奉納する舞いということもあり、鳴門市の獅子舞に女性が関わることはなかったが、戦後、とくに高度経済成長期以降地域の少子化が急激に進み、太鼓役の数が男子だけでは足りなくなり女子を入れる地区が次第に増えてきた。回答者の2割近くを占める女性は、基本的に太鼓(もしくはチョウコ、手拍子)役の子どもである。獅子の舞い手については依然として男性が基本であるが、榑木では2011年より女性が舞い手として参加するようになり、2015年現在3人の女性の舞い手がいる。

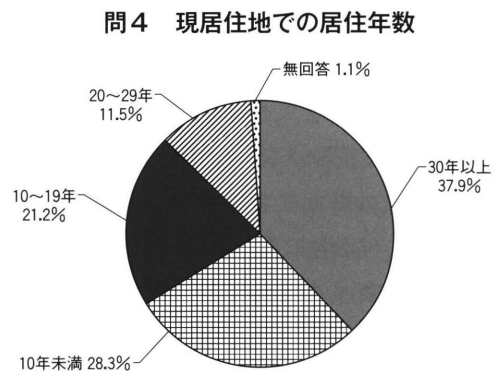
(3)居住地



回答者の居住地(問3)は、「獅子舞の伝承地域⁴⁾内」79.2%、「鳴門市内(伝承地域外)」13.8%、「鳴

門市外」5.6%、「無回答」1.5%となっており、伝承者の8割は伝承地内に住んでいる。一方、地域外に住む伝承者も2割程度存在しており、獅子舞の伝承組織が従来の「伝承地」という枠を超えた広がりを見せていることがわかる。進学・就職・結婚などを契機に伝承地から転出した人がその後も出身地の獅子舞に関わり続けているケースが多いが、地域外の住民が何らかのつながりで伝承地の獅子舞に参加しているケースもある(聞き取り調査による)。

(4)現居住地での居住年数



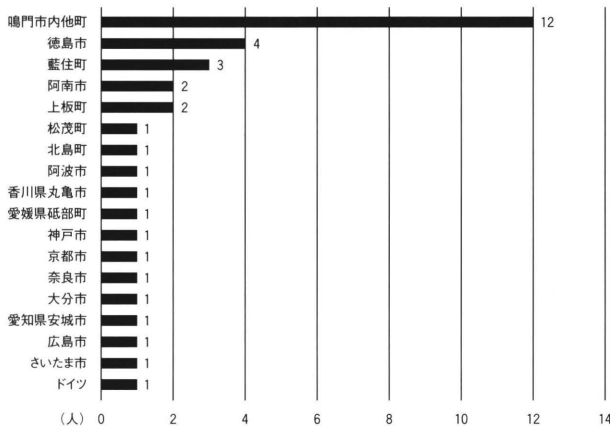
「現居住地での居住年数は何年ぐらいになりますか。」という問い(問4)に対する回答は、「30年以上」37.9%、「10年未満」28.3%、「10～19年」21.2%、「20年～29年」11.5%、無回答1.1%となっている。

子どもが回答者の場合、年齢に対応して居住年数は低い数値を示している。ただし、子どもを含む世帯の当該地域における居住年数も同様に短いとは限らないので、注意が必要である。また、現在伝承地外に住んでいる回答者の場合、「現居住地」は伝承地ではなく、伝承地外の現住地を意味することになる。こうした部分を差し引いても、伝承地に少なくとも20年以上住み続けている大人(成人)は182人中121人(66.5%)と多い。地域住民が「伝承地に住み続けること」は、伝承者の確保、地域文化の継承にとって大きな利点となり得る。

(5)出身地(伝承地以外)

「出身地はどちらですか(現居住地と異なる場合)。」という問い(問5)に対し、13.4%(回答者269人中36人)が具体的な出身地(伝承地を除く)を回答している。伝承地域外の出身者も1割以上獅子舞に関与していることがわかる。鳴門市内の他町

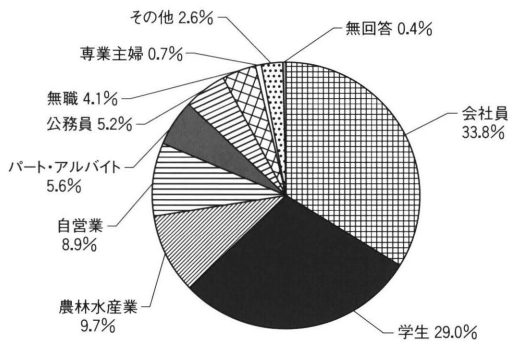
問5 出身地（伝承地以外）



が12人と最も多く、徳島市4人、藍住町3人、阿南市2人、上板町2人がそれに次ぐ。県外出身者は9名、外国人が1名いる。伝承地以外の出身者は、伝承地への転入の時期にもよるが、現居住地での居住年数が浅く（居住年数「10年未満」が47.2%）、結果として獅子舞への参加年数が浅い（経験年数「5年未満」が33.3%、「5～10年」が25.0%）ケースが少なくない。

(6)職業

問6 職業



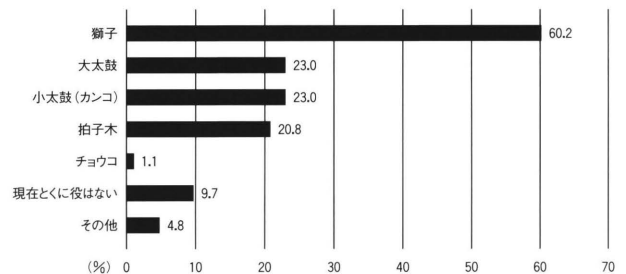
「現在のお仕事は何ですか。」という問い（問6）に対する回答は、「会社員」が33.8%と最も多く、以下、「学生」29.0%、「農林水産業」9.7%、「自営業」8.9%、「パート・アルバイト」5.6%、「公務員」5.2%、「無職」4.1%、「専業主婦」0.7%、「その他」2.6%、無回答0.4%の順となっている。「学生」が多いのは、主に太鼓役として子ども（小学生を中心にその前後の年代）が参加していることによる。

伝承地の多くは、かつては（一部は現在も）農業や漁業を主たる生業とする地域であったが、近年の社会変化にともない、全体として住民のサラリーマン化が進んでいる。「学生」を除く有職者の53.5%

が会社員である。こうした状況をふまえ、近年祭礼日を土日祝日に変更するところが多くなっている。

(7)現在の役

問7 現在の役

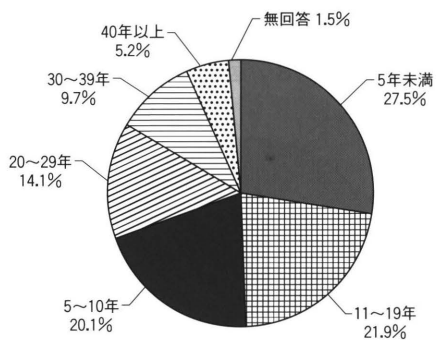


「何の役を務めていますか。」という問い（問7、複数回答可）に対する回答は、「獅子」60.2%、「大太鼓」23.0%、「小太鼓（カンコ）」23.0%、「拍子木」20.8%、「チョウゴ」1.1%、「現在とくに役はない」9.7%、「その他」4.8%となっている⁵⁾。一人が複数の役を兼務している場合も少なくなく、総回答数（384人）／回答人数（269人）×100＝約143%で、数字の上では一人あたり1.4役をこなしていることになる。とくに舞い手が拍子木を兼ねる場合が多い。大人が太鼓を担当している地区（大幸、北泊）では、舞い手と太鼓を兼ねる人が多くなっている。

なお、大太鼓・小太鼓はそれぞれ2個（計4人がたたく）が基本で、担当者の人数がそれより多い場合には適宜交代しながらたたく形を取っている。獅子は、10名～十数名程度の舞い手が適宜途中で交代しながら演じている。

(8)獅子舞の経験年数

問8 獅子舞の経験年数

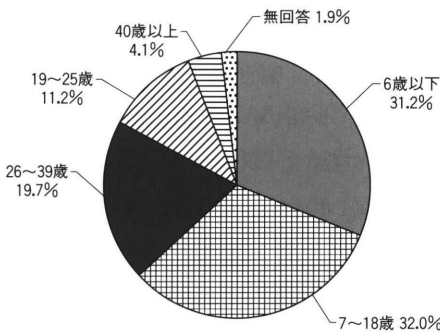


「あなたが獅子舞に関わるようになって何年ぐらいになりますか。」という問い（問8）に対する回答は、多い順に「5年未満」27.5%、「11～19年」21.9%、「5～10年」20.1%、「20～29年」14.1%、「30

～39年]9.7%,「40年以上」5.2%,無回答1.5%となっている。伝承地に生まれ育った大人の場合、多くの人は子ども(小学生あるいはそれ以前)の頃から獅子舞に関わって現在に至っており、その蓄積年数が経験年数となっている。経験年数の浅い回答者の多くは子どもであるが、成人の中にも経験年数の浅い人がおり(「5年未満」と答えた成人は21人で、成人全体(182人)のうち11.5%),成人になってから新たに獅子舞に参加する人もいることがわかる。他地域から転居してきたことをきっかけに参加、子どもが獅子舞に参加したことを契機として自分も参加、保存会や消防団などの勧誘で参加するケースなどが見られる。

(9)獅子舞に関わり始めた年齢

問9 獅子舞に関わり始めた年齢

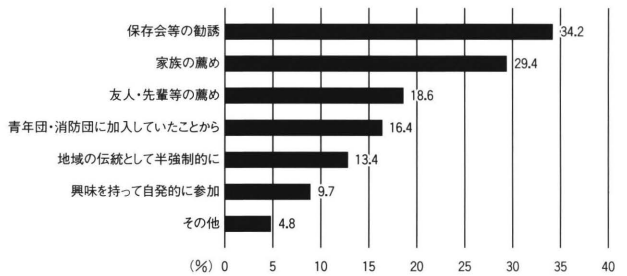


「あなたが最初に獅子舞に関わったのは、何歳頃のことですか。」という問い(問9)に対する回答は、「6歳以下」31.2%,「7～18歳」32.0%,「26～39歳」19.7%,「19～25歳」11.2%,「40歳以上」4.1%,無回答1.9%となっている。回答者の約3分の1は6歳以下、すなわち子どもの頃から獅子舞に関わりを持っている(大人の回答者については、現在も関わり続けている)ことがわかる。松の例を取ると、獅子舞の役はチョウコ(3,4歳児)→手拍子(幼稚園児)→大太鼓(小学1～3年生)→小太鼓(小学4～6年生)→獅子(中高生～大人)という順で上がっていくが、こうした年齢階梯的な役割分担システムが、地域における獅子舞の伝承の連続性を担保するのに大いに役立っていると言える。

(10)獅子舞に関わるきっかけ

「獅子舞の活動に参加し始めたきっかけは何ですか。」という問い(問10,複数回答可)に対する回答は、多い順に「保存会等の勧誘」34.2%,「家族の

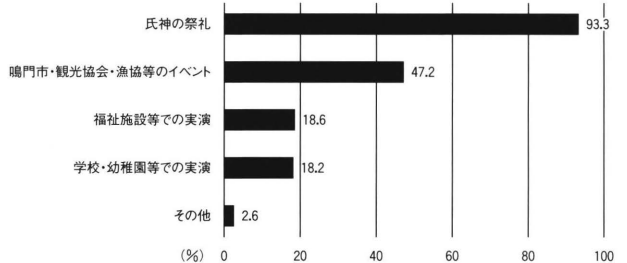
問10 獅子舞に関わるきっかけ



薦め」29.4%,「友人・先輩等の薦め」18.6%,「青年団・消防団に加入していたことから」16.4%,「地域の伝統として半強制的に」13.4%,「興味を持って自発的に参加」9.7%,「その他」4.8%となっている。興味を持って自発的に参加した人は1割に満たず、保存会メンバー・家族・友人や先輩など、周囲の勧誘をきっかけとして参加するようになった人が多いことがわかる。地域の伝統、あるいは消防団や青年会のつながりで半強制的に参加するようになった人も少なくない。

(11)参加している活動

問11 参加している活動

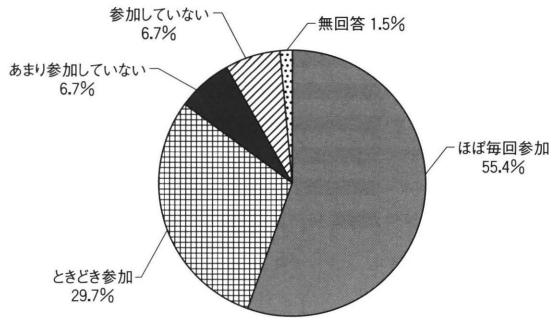


「あなたは獅子舞のどのような活動に参加していますか。」という問い(問11,複数回答可)に対する回答は、「氏神の祭礼」93.3%,「鳴門市・観光協会・漁協等のイベント」47.2%,「福祉施設等での実演」18.6%,「学校・幼稚園等での実演」18.2%,「その他」2.6%となっている。地元の氏神の祭礼で演じることが活動のメインとなっているが、近年は(団体にもよるが)「鳴門のまつり」をはじめ各種イベントに出演することも多くなっている。

(12)練習への参加

「本番(祭礼)前の練習にはどの程度参加していますか。」という問い(問12)に対する回答は、「ほぼ毎回参加」が55.4%を占め、以下、「ときどき参加」29.7%,「あまり参加していない」6.7%,「参加して

問 12 練習への参加

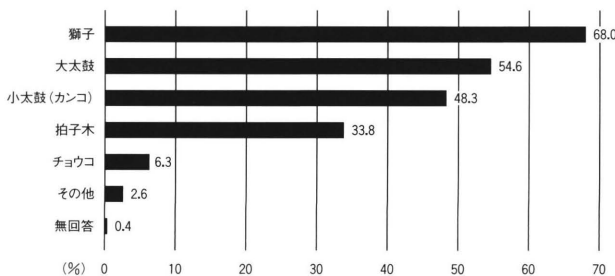


いない」6.7%、無回答1.5%となっている。

「あまり参加していない」「参加していない」と答えた人36人のうち40～70代のベテランが22人、そのうち獅子舞の役を引退した高齢者が8人いる。居住地で見ると、鳴門市外在住者が6人いる。また、36人のうち問22で「仕事が忙しく時間がとれない」と答えた人は9人（若年層が中心）、「体力的に厳しい」が6人、「地域外に住んでいるので」が1人となっている。仕事が忙しい、地域外居住などの理由で物理的に参加できない人、ベテランで練習参加の必要をあまり感じていない人、一線を退いた人などが練習に参加していない状況がうかがえる（聞き取り調査による）。

(13) これまで経験した役

問 13 これまで経験した役



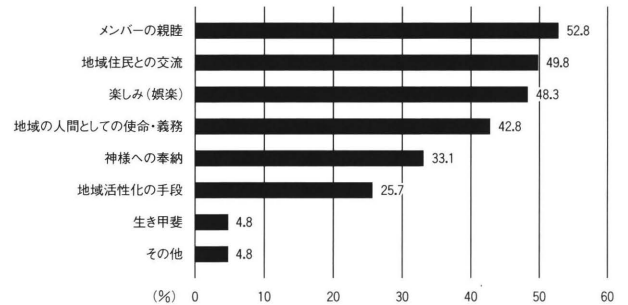
「獅子舞の役でこれまで経験したことのあるものは何ですか。」という問い（問13、複数回答可）に対する回答は「獅子」68.0%、「大太鼓」54.6%、「小太鼓（カンコ）」48.3%、「拍子木」33.8%、「チョウコ」6.3%、「その他」2.6%、無回答0.4%となっている。

問7の「現在務めている役」と密接に関連する設問であるが、問13の場合、（とくに大人の場合）子どもの頃から経験してきた役をすべて書き連ねる形になるので、1人が多くの項目に○を付けることになる。総回答数（576人）／回答人数（269人）×

100 = 約214%で、数字の上ではこれまで一人2.1役の経験があることがわかる。獅子の経験者183人のうち90人（49.2%）が大太鼓、100人（54.6%）が小太鼓を経験しているが、これは問9の「獅子舞に関わり始めた年齢」の回答結果（子どもの頃から獅子舞に関わってきた人が多い）と連動している。

(14) 獅子舞を続けることの意味

問 14 獅子舞を続けることの意味



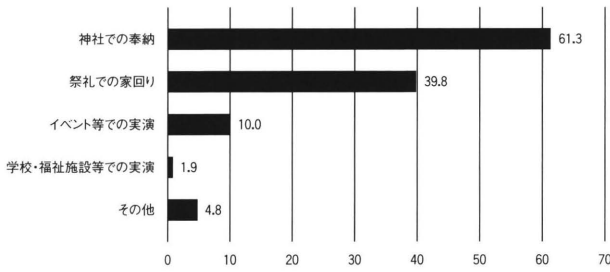
「あなたにとって、獅子舞を続けることの意味は何ですか。」という問い（問14、複数回答可）に対する回答は、多い順に、「メンバーの親睦」52.8%、「地域住民との交流」49.8%、「楽しみ（娯楽）」48.3%、「地域の人間としての使命・義務」42.8%、「神様への奉納」33.1%、「地域活性化の手段」25.7%、「生き甲斐」4.8%、「その他」4.8%となっている。

「地域の人間としての使命・義務」という回答に示された地域の伝統継承への使命感、また「神様への奉納」というような宗教的な意味づけも見られるが、個人的に「楽しみ（娯楽）」、あるいは「メンバーの親睦」「地域住民との交流」といった獅子舞を通じて生まれる地域のつながりに獅子舞を続けることの積極的な意味を見いだしている人も多い。こうした複数の意味づけが重なることで、伝承のモチベーションにつながっているものと考えられる。とくに「楽しみ」「メンバーの親睦」「地域住民との交流」といった伝承者の主体的・能動的な意味づけは、伝承の大きな後押しになり得る。

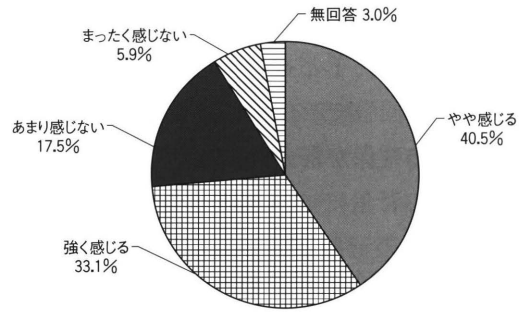
(15) やりがいがあること

「獅子舞の活動のなかでもっともやりがいがあることは何ですか。」という問い（問15、複数回答可）に対する回答は、「神社での奉納」61.3%、「祭礼での家回り」39.8%、「イベント等での実演」10.0%、「学校・福祉施設等での実演」1.9%、「その他」4.8%と

問15 やりがいがあること



問17 伝承に対する危機感



なっている。

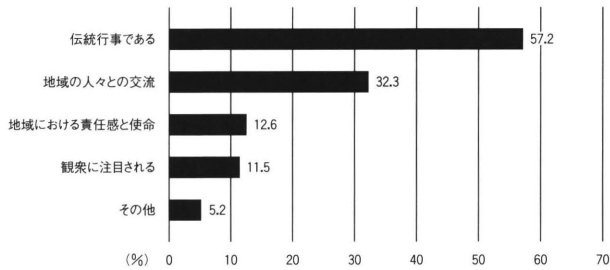
宗教（伝統）的な意味を持ち、大勢の観客に注目される神社での奉納を「本番」「晴れ舞台」ととらえている人は多く（聞き取り調査による）、こうした意識が上記の回答に反映していると考えられる。「祭礼での家回り」も、問14や問16の回答に見られるように地域住民の交流の機会として積極的にとらえられている。イベントや福祉施設での実演は、すべての団体が行っているわけではなく、また活動としては祭りに比べあくまでも副次的なものとしてとらえられているため、回答数が低くなっていると考えられる。

「地域の獅子舞について、伝承（継続）の危機を感じることはありますか。」という問い（問17）に対する回答は、「やや感じる」40.5%、「強く感じる」33.1%、「あまり感じない」17.5%、「まったく感じない」5.9%、無回答3.0%の順となっている。「強く感じる」「やや感じる」を合わせると73.6%となり、回答者の4分の3は獅子舞の伝承に一定の危機感を感じていることがうかがえる。

問17に対する回答と回答者の世代のクロス集計を行った結果、危機感を強く感じているのは、50代61.5%（26人中16人）、30代53.1%（49人中26人）、20代44.8%（29人中13人）、60代38.5%（26人中10人）、40代29.8%（47人中14人）、70代20.0%（5人中1人）、9歳以下18.9%（37人中7名）、10代14.3%（42人中6人）の順であった。

(16) やりがいを感じる理由

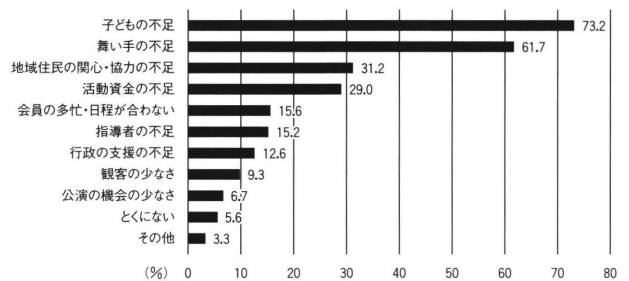
問16 やりがいを感じる理由



「問15で答えた活動にやりがいを感じる理由は何ですか。」という問い（問16、複数回答可）に対する回答は、「伝統行事である」57.2%、「地域の人々との交流」32.3%、「地域における責任感と使命」12.6%、「観衆に注目される」11.5%、「その他」5.2%となっている。問15で「神社での奉納」と回答した人は問16で「伝統行事である」または「観衆に注目される」と答える傾向が強く（それぞれ72.7%、13.9%）、問15で「祭礼での家回り」と答えた人は問16で「地域の人々との交流」と答える傾向が強かった（54.2%）。

(18) 獅子舞継続の課題・問題点

問18 獅子舞継続の課題・問題点



「今後、獅子舞の活動を継続するにあたっての課題・問題点はどのような点にあると思いますか。」という問い（問18、複数回答可）に対する回答は、多い順に「子どもの不足」73.2%、「舞い手の不足」61.7%、「地域住民の関心・協力の不足」31.2%、「活動資金の不足」29.0%、「会員の多忙・日程が合わない」15.6%、「指導者の不足」15.2%、「行政の支援の不足」12.6%、「観客の少なさ」9.3%、「公演の機会

(17) 伝承に対する危機感

の少なさ」6.7%、「とくにない」5.6%、「その他」3.3%となっている。

とくに多いのが「子どもの不足」および「舞い手の不足」という回答で、伝承にあたり、獅子舞を演じるメンバーの確保が最大の課題となっていることがわかる。その背景には、地域社会における過疎・高齢化、少子化の進展といった状況がある。また、若年層のサラリーマン化・多忙化も、若い世代が腰を据えて獅子舞に携わることを難しくしている。

「地域住民の関心・協力の不足」は、地域における伝承者の確保の困難、また伝承者のモチベーションの低下にもつながる。「活動資金の不足」を問題にする声も29.0%と少なくない。道具の修理費などの経費の確保は、伝承を継続するために重要な課題である。近年、民間財団等の助成金を得て道具の修理・新調などを行う団体もあるが、コンスタントにサポートが得られるという保証はない。「行政の支援の不足」を課題に挙げた人は12.6%にとどまっている。

(19)課題解決のための方策

「問18で答えたような課題・問題点を解決するための方策として、どのようなことが考えられますか。自由にお書きください。」という問い(問19)に対し、83人(回答者269人中、30.9%)から意見が寄せられた。問18ではとくに「子どもの不足」「舞い手の不足」が獅子舞の伝承にあたっての大きな課題として挙げられていたが、その対応策として、「地域住民の積極的な参加を促す工夫をする」「誰もが獅子舞に参加できるようなシステムを整える」「祭りの日を土日に変える」「練習や当日の負担を軽くする」「地元を離れても参加しやすい環境をつくる」などの意見があった。メンバーを確保するためにはそもそも地域社会の持続可能性を高める(定住人口を増やす)方策が必要との意見も多い。「人口を増やす」「働き口を作る」「地域を住みやすくする」「若い家族が来住しやすい環境作り」「行政とも連携して空き家を提供し地域外から若い移住者を増やす」「少子化対策」「地域から出て行った人材が戻りやすいようにする」といったものである。

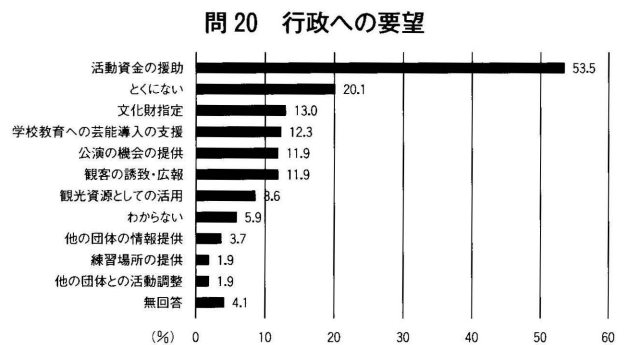
「地域住民の関心・協力の不足」については、「獅子舞を広く知ってもらう」「地域の人に獅子舞に関

心を持ってもらう」「若い世代に獅子舞の魅力を伝える」「学校や地域のイベントでの宣伝」「ポスターでアピール」などの意見が出されている。「公演機会を増やし励みが出るようにする」など、現在のメンバーのモチベーションを維持することの重要性も指摘されている。

「活動資金の不足」「行政の支援の不足」に関しては、「行政の財政支援」を求める声がある。「行政は伝統文化の観光イベントや就職支援、学校では伝統文化歴史等の教育を推進し、地域では世代を越えた交流を行い『行政・地域・学校』の連携が重要」という意見は、民俗文化継承における行政の役割を考える上で重要である。

一方で、過疎や少子・高齢化は時代の流れで、課題解決のための方策は見当たらないとする意見も11人からあった。

(20)行政への要望

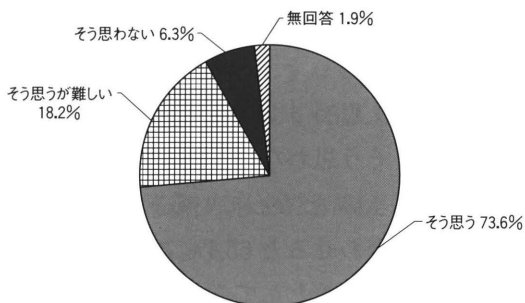


「獅子舞の伝承に関連して、行政に対する要望はありますか。」という問い(問20、複数回答可)に対する回答は、回答数の多い順に、「活動資金の援助」53.5%、「とくにない」20.1%、「文化財指定」13.0%、「学校教育への芸能導入の支援」12.3%、「観客の誘致・広報」11.9%、「公演の機会の提供」11.9%、「観光資源としての活用」8.6%、「わからない」5.9%、「他の団体の情報提供」3.7%、「練習場所の提供」1.9%、「他の団体との活動調整」1.9%となっている。無回答は4.1%ある。

行政に期待することの第一は「活動資金の援助」である。「文化財指定」以下の項目は、割合は13%以下と高くはないが、行政のサポートがなければ実現しにくい諸課題が挙げられている。「とくにない」という回答は、現時点では行政に頼る必要を感じていないことを意味している。

(21) 今後の獅子舞への関与希望

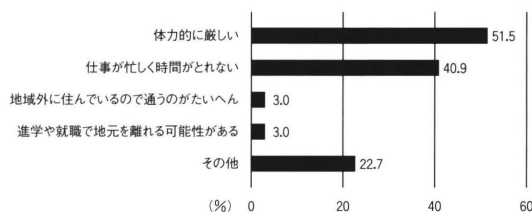
問 21 今後の獅子舞への関与希望



「この先もできるだけ長く獅子舞に関わっていきたいと思いますか。」という問い (問 21) に対する回答は、「そう思う」73.6%、「そう思うが難しい」18.2%、「そう思わない」6.3%、無回答 1.9%となっている。「そう思う」「そう思うが難しい」を合わせると 91.8%に達し、回答者の 9 割以上は獅子舞に関わり続けたいという気持ちを持っていることがわかる。しかし、「そう思うが難しい」という回答が 2 割近くを占めることからわかるように、実際にはさまざまな理由で今後獅子舞に関わり続けることが難しいと考えている人も少なくない。

(22) 獅子舞に関わりにくい理由

問 22 獅子舞に関わりにくい理由



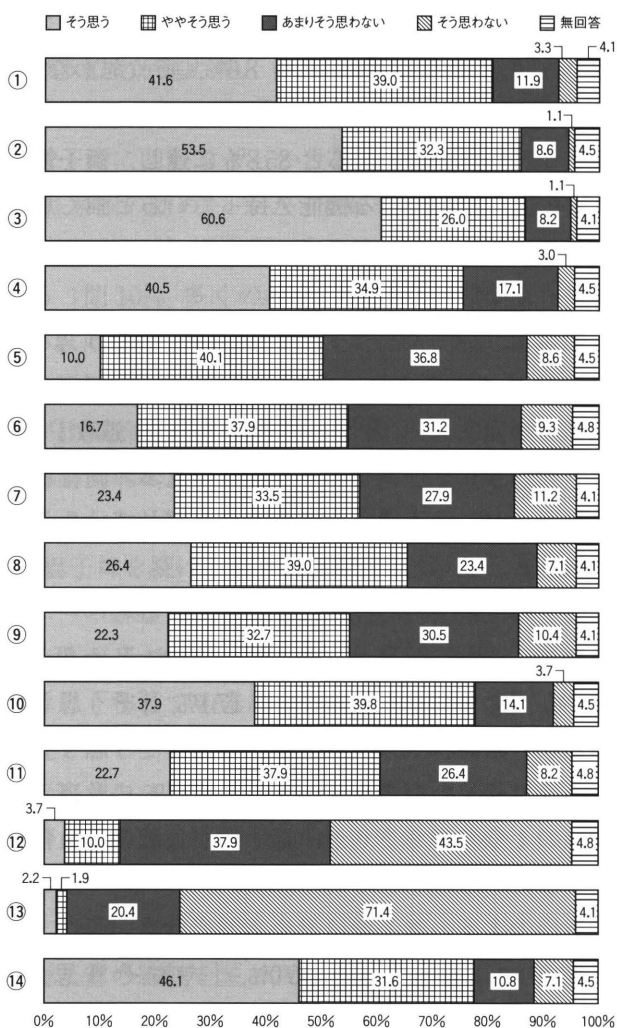
問 21 で「そう思わない」「そう思うが難しい」と回答した人 (66 人) に「その理由は何ですか。」と尋ねたところ (問 22, 複数回答可), 「体力的に厳しい」51.5%, 「仕事が忙しく時間がとれない」40.9%, 「地域外に住んでいるので通うのがたいへん」3.0%, 「進学や就職で地元を離れる可能性がある」3.0%, 「その他」22.7% という回答を得た。「その他」の中には、「学校行事・部活動のため」「他にやりたいことがある」「70 歳という年齢制限」「人手不足」「地域住民の無関心」などの回答があったが、個人の問題だけでなく地域の問題が若干混在している。

伝承者の高齢化 (体力的に厳しい), 生活の多忙化 (仕事が忙しい), 進学・就職に伴うライフステー

ジの変化 (地域外居住) などが「獅子舞に関わり続けること」を阻害する要因となっていることがうかがわれる。

(23) 獅子舞の伝承に対する意識

問 23 獅子舞の伝承に対する意識



関係者の獅子舞の伝承に対する意識 (伝承に対する保守的/革新的考えの程度) を知るために、以下に挙げる①~⑭までの小問 (項目) のそれぞれについて、「そう思う」「ややそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」のうち、当てはまるものを選択してもらった (いずれも回答者は 269 人)。

①住民は、地域の獅子舞を伝承していく義務がある。

回答は「そう思う」41.6%、「ややそう思う」39.0%、「あまりそう思わない」11.9%、「そう思わない」3.3%、無回答 4.1%となっている。多くの伝承地において、伝承者が獅子舞を「地域の伝統文化」として伝承していく責任を感じていることがわか

る。すべての地区において、「そう思う」「ややそう思う」の合計は回答者の80%以上を占めている。これは、獅子舞伝承地域における地域アイデンティティの強さをも物語っている。

②獅子舞は地域の人々を結びつける力となる。

回答は「そう思う」53.5%、「ややそう思う」32.3%、「あまりそう思わない」8.6%、「そう思わない」1.1%、無回答4.5%となっている。「そう思う」「ややそう思う」を合わせると85.8%に達し、獅子舞が地域住民を結びつける機能を持っていると強く意識されていることがわかる。

③獅子舞は地域の誇りである。

回答は「そう思う」60.6%、「ややそう思う」26.0%、「あまりそう思わない」8.2%、「そう思わない」1.1%、無回答4.1%となっている。「そう思う」「ややそう思う」を合わせると86.6%に及ぶ。回答者の9割近くが、獅子舞を地域の誇りと感じていることがわかる。

④獅子舞は地域の活性化に役立っている。

回答は「そう思う」40.5%、「ややそう思う」34.9%、「あまりそう思わない」17.1%、「そう思わない」3.0%、無回答4.5%となっている。「そう思う」「ややそう思う」の両者を合わせると75.4%に及び、回答者の4分の3あまりが、獅子舞が地域の活性化に役立っていると感じている。

⑤地域の人々の獅子舞に対する関心は高い。

回答は「そう思う」10.0%、「ややそう思う」40.1%、「あまりそう思わない」36.8%、「そう思わない」8.6%、無回答4.5%となっている。獅子舞に対する関心の度合いは地域によって異なっていることがわかる。

⑥獅子舞を通して他の地域の人々との交流が盛んになる。

回答は「そう思う」16.7%、「ややそう思う」37.9%、「あまりそう思わない」31.2%、「そう思わない」9.3%、無回答4.8%という割合になっている。

⑦観光資源としての獅子舞の活用も考えるべきである。

回答は「そう思う」23.4%、「ややそう思う」33.5%、「あまりそう思わない」27.9%、「そう思わない」11.2%、無回答4.1%となっている。獅子舞の観

光資源としての活用については賛否が分かれている。

⑧地域の学校と連携して獅子舞を伝承することを考えてもよい。

回答は「そう思う」26.4%、「ややそう思う」39.0%、「あまりそう思わない」23.4%、「そう思わない」7.1%、無回答4.1%となっている。「そう思う」「ややそう思う」を合わせると65.4%となり、回答者の3分の2は伝承の方策として学校と連携することに意義を見いだしている。

⑨市内外の獅子舞との交流・競演の機会がもっとあってもよい。

回答は「そう思う」22.3%、「ややそう思う」32.7%、「あまりそう思わない」30.5%、「そう思わない」10.4%、無回答4.1%となっている。

⑩獅子舞は厄除けや豊作祈願など宗教的な意味を持った行事である。

回答は「そう思う」37.9%、「ややそう思う」39.8%、「あまりそう思わない」14.1%、「そう思わない」3.7%、無回答4.5%となっている。獅子舞は現代においても依然として宗教的な意味を持った行事としてとらえられている。

⑪獅子舞を上演する日にちや場所は伝統に従うべきである。

回答は「そう思う」22.7%、「ややそう思う」37.9%、「あまりそう思わない」26.4%、「そう思わない」8.2%、無回答4.8%となっている。伝統的な日時・場所にこだわる人は約6割いるが、比較的こだわらない人も約35%に上る。

⑫獅子舞の伝承に、他の地域の人々が関わるべきではない。

回答は「そう思う」3.7%、「ややそう思う」10.0%、「あまりそう思わない」37.9%、「そう思わない」43.5%、無回答4.8%となっている。獅子舞は伝統的には地域内のメンバーによって伝承されてきたが、過疎、少子・高齢化が進む状況下で獅子舞を維持継承するためには、(地域メンバーを核としつつも)必ずしもメンバーを地域内に限定することはないという柔軟な考え方が広がってきたことがわかる。

⑬獅子舞に女性が参加するべきではない。

回答は「そう思う」2.2%, 「ややそう思う」1.9%, 「あまりそう思わない」20.4%, 「そう思わない」71.4%, 無回答4.1%となっている。「そう思う」「ややそう思う」という回答, すなわち女性の獅子舞への参加にやや抵抗を感じている人は4.1%に過ぎない。

⑭太鼓や舞いは伝統の形をできるだけ変えずに受け継ぐべきである。

回答は「そう思う」46.1%, 「ややそう思う」31.6%, 「あまりそう思わない」10.8%, 「そう思わない」7.1%, 無回答4.5%となっている。「そう思う」が半数近くを占め, 「ややそう思う」と合わせると77.7%となり, 伝承者の多くは先人から受け継いできた民俗芸能の「伝統の形」へのこだわりを持っていることがわかる。

⑭獅子舞に対する意見

「普段獅子舞について感じていることがあれば, 自由にお書きください。」という問い(問24)について, 56人(回答者269人中, 20.8%)の回答があった。とくに多く見られたのは, 「世代を超えた地域の人々の交流の場」として地域の獅子舞の存在意義を積極的に評価する意見である。また, 後継者不足や経費の問題などさまざまな制約・困難の存在を認めた上で, 今後の獅子舞の継続を強く望む声も56人中46人(82.1%)と多かった。子どもからは「楽しい」「これからも続けたい」という意見が共通して挙がっていた。

4. 考察

ここまで問いごとに集計結果を示し簡単な分析を加えてきたが, あらためて全体をふまえ, 今回の調査から明らかになったことを整理しておく。

獅子舞の伝承団体のメンバーは, 伝統的には男性のみであったが, 近年少子化が急速に進み太鼓役に女子が参加することが一般化し, その割合は2割近くに及んでいる(問2)。獅子の舞い手に女性が参加する事例も出てきている(櫛木)。獅子は, かつては20代前後の青年が中心に舞っていたが, 地域の過疎・高齢化が進み, 40代以上の壮・高年層も参加しなければ維持が難しくなっている(問1)。メンバーの8割は伝承地内に住んでおり(問3),

居住年数が20年以上の人が約5割を占める(問4)。こうした定住者が, 獅子舞伝承の中心的役割を果たしている。しかし地域外に住む伝承者も2割程度おり, 獅子舞の伝承組織が従来の伝承地の枠を超えた広がりを見せていることがわかる(問3)。地域住民の職業も多様化し(問6), サラリーマン化・仕事の多忙化が進む中, それに対応した祭りのあり方が求められてもいる(問24)。

獅子舞に関わるきっかけとして, 「保存会等の勧誘」「家族の勧め」「友人・先輩等の勧め」「青年団・消防団に加入していたことから」などが挙げられている(問10)。多くの場合, 地域の中で子どもの頃から段階的に(年齢を追って)役を経験して獅子の舞い手に至っており(問7, 問9, 問13), 経験年数が比較的長い人が多い(問8)。こうした年齢階梯的な伝承システムは, それが機能している限りは伝承の大きな柱となり得る。

「獅子舞を続けることの意味」を尋ねたところ, 「メンバーの親睦」「地域住民との交流」「楽しみ」を挙げる人が多かった(問14)。獅子舞の活動の中でもとくに「神社での奉納」「祭礼での家回り」にやりがいを感じているが(問15), その理由として「伝統行事であること」「地域の人々との交流」などが挙げられている(問16)。練習の参加率は「ほぼ毎回参加」「ときどき参加」を合わせると約85%を占め, 積極的な参加状況がうかがえる(問12)。

獅子舞の継続を望む声は高いが(問24), 近年過疎・高齢化, 少子化の進展とともにその伝承が次第に困難となってきており, 鳴門市の獅子舞22カ所のうち, 現在活動を行っているのは12カ所となっている。その12カ所についても, 約4分の3のメンバーが地域の獅子舞の伝承に危機感を覚えている(問17)。獅子舞継続の課題として, 「舞い手の不足」「子どもの不足」を挙げる人が多く(回答者の6~7割程度), 「地域住民の関心・協力の不足」「活動資金の不足」がこれに次ぐ(問18)。

回答者の9割以上は今後も獅子舞に関わり続けたいという気持ちを持っているが(問21), うち2割程度の人には「体力的な問題, 仕事が忙しい, 伝承地外に住んでいるなどの理由で, 関わり続けることは現実的に難しい」とらえている(問22)。

全体的に、鳴門市の獅子舞伝承者の伝承への熱意、モチベーションは高い（問23①～③）。できるだけ「伝統の形」を受け継ぐべきと考えながらも（問23⑭）、女性や地域外住民の参加、日程変更、観光資源化など、時代に合わせた柔軟な対応が必要と考えており（問23⑦、⑪～⑬）、こうした意識の高さ、柔軟さは今後の伝承にプラスの影響を与えると考えられる。

獅子舞継承の課題については、さまざまな対応策が提案されている（問19）。「舞い手の不足」「子どもの不足」に対しては、「地域住民の積極的な参加を促す工夫をする」「誰もが獅子舞に参加できるようなシステムを整える」「祭りの日を土日に変える」「練習や当日の負担を軽くする」「地元を離れても参加しやすい環境をつくる」などの意見があった。メンバーを確保するためには、そもそも定住人口を増やす方策が必要との意見も多く示されている。「地域住民の関心・協力の不足」については、「獅子舞を広く知ってもらう」「若い世代に獅子舞の魅力を伝える」などの意見が出されている。「公演機会を増やし励みが出るようにする」など、現メンバーのモチベーションを維持することの重要性も指摘されている。

5. おわりに

以上、鳴門市の各獅子舞伝承団体メンバーに対するアンケート調査に基づき、メンバーの属性、活動への参加状況、伝承に関する意識等を明らかにしてきた。本稿で示したような各地域における獅子舞の

伝承の実態（課題）をふまえ、関係者の「内側からの意見」を尊重しつつ、必要に応じて行政や学校との連携体制も見据えながら、地域にあった伝承システムを整えていくことが今後の重要な課題になると思われる。

謝辞

今回の調査にあたっては、鳴門市内の各獅子舞伝承団体の代表者の方をはじめ、獅子舞に携わる多くの皆様にたいへんお世話になりました。心より感謝申し上げます。

注

- 1) 星野（2009）、澁谷（2006）。
- 2) 徳島県教育委員会（1998）：127-8頁。
- 3) 高橋（2016）。報告書の元となる調査は、徳島大学総合科学部開講「地域調査演習A」担当教員（高橋）・受講生計17名と阿波学会民俗班の共同で行われた。
- 4) ここで言う「伝承地域」とは、伝統的に当該獅子舞が伝承・奉納されてきた地域のことを指す。伝統的には、獅子舞は特定の地域の住民（その地域の氏神の氏子）でなければ関わることはできなかった。鳴門市では、獅子舞は基本的に大字を単位として伝承されている。
- 5) ただし、問13と混同して、これまで経験した役をすべて答えている回答者もいるようで、現実の数値とは若干の誤差を生じている。

参考文献

- 澁谷美紀（2006）『民俗芸能の伝承活動と地域生活』農山漁村文化協会
- 高橋晋一編（2016）『鳴門市の獅子舞』徳島大学総合科学部文化人類学・民俗学研究室
- 徳島市教育委員会（1998）『徳島県の民俗芸能－徳島県民俗芸能緊急調査報告書』徳島県教育委員会
- 星野紘（2009）『村の伝統芸能が危ない』岩田書院

Current Status and Issues of the Succession of Shishimai (Lion Dance) in Naruto City: Analysis of the Questionnaire Survey for the Members of the Shishimai Groups

TAKAHASHI Shinichi*, AMOU Yoshihito, ISOMOTO Hironori, SAJIKI Mayumi and SEKI Mayuko.

* 1-1, Minamijosanjimacho, Tokushima 770-8502, Japan

Proceedings of Awagakkai, No.61 (2017), pp.137-148.